

課題一 ▼漢字・語句▲について、以下の問いに答えなさい。

問1 次の傍線部の漢字の読み仮名を書きなさい。

- ① 端的 () ② 尽力 () ③ 素描 () ④ 闇夜 ()
⑤ 傾斜 () ⑥ 振幅 () ⑦ 媒介 () ⑧ 雷雨 ()

問2 次の傍線部の片仮名を漢字に直しなさい。送り仮名が必要なときは書きなさい。

- ① ミジユクな果実。 () ② 力がオヨバナイ。 ()
③ 心をウバウ。 () ④ 過ちをオカス。 ()
⑤ 七色のニジ。 () ⑥ ギワクを晴らす。 ()
⑦ 平衡カンカク。 () ⑧ ガスバクハツ。 ()
⑨ 心にヒビク言葉。 () ⑩ ガイトウ演説。 ()

問3 「言わずもがな」(一六・16)の意味を書きなさい。

- ()

課題二 ▼要点の整理▲ 空欄を補充して、段落毎の要点をまとめなさい。

●第一段落 (初め〜一四・7)・第二段落 (一四・8〜一五・13)

筆者は、光は色が存在するための条件であって、色を①「 」するための条件ではないと気づいた。ところで、色は物の性質なのか。色は物の性質だと言いたくなるが、物がわれわれに引き起こす感覚であるとも考えられる。感覚だとすれば、色は②「 」(あるいは③「 」)の内に生じるものであり、客観的な世界そのものは④「 」だということになる。筆者は、世界にはさまざまな色彩があふれ、その中で私たちが生きていて、それは客観的世界だと考える。⑤「 」が描き出す物質世界は色をもたないが、それは単に(⑤)が色に⑥「 」しただけであり、客観的世界の側面であり、それだけが客観的世界と考えるのは誤りである。

●第三段落 (一五・14〜一六・9)・第四段落 (一六・10〜一七・11)

世界は色に満ちている。しかし光が存在しない⑦「 」の中ではバラは赤くないはずだ。光がなければ色が失われるとすれば、色は物の性質とはいえない。色は物から光が⑧「 」して(②)の内
に引き起こされる感覚なのか。筆者は判断できず困る。

●第五段落 (一七・12〜一八・1)・第六段落 (一八・2〜終わり)

筆者は、虹について考え、困惑が解消する。光がなければ虹はできないが、だからといって虹が(②)の中にあると考える人はいない。光は虹が世界の中に存在するための条件の一つである。色も同様だ。光がなくなっても、物の性質は変化しない。音は振動する⑨「 」がなければ存在しない。だからといって音は(③)の内ではなく世界にある。虹や雷鳴がそうであるように、色もまた、感覚でも物の性質
でもなく、世界の中に生じた⑩「 」なのである。

段落	ページ・行	各段の要旨をまとめてみよう
第一段	初め〜一四・七（思うのである。）	問題提起
第二段	一四・八（色は物の性質だろうか？） 一五・六（ということになる。）	議論1 「色は性質か感覚か」
第三段	一五・七（だが、私は）〜一六・九（そう考えたい。）	議論2 「議論1への反論」
第四段	一六・10（では、暗闇で）〜一七・11（私は困っていたのである。）	議論3 「議論2への疑問」
第五段	一七・12（色は物の性質だろうか？） 一八・1（ということになる。）	議論4 「光は色が生まれる条件」
第六段	一八・2（だが、光が）〜終わり	議論5 「結論」